

「日々の理科」(第 4128 号) 2025, 11, 28

## 「石神井川下流の流路変遷 (5)」

お茶の水女子大学サイエンス＆エデュケーション研究所

田中 千尋 Chihiro Tanaka



(国土地理院航空写真／2019年／令和元年)

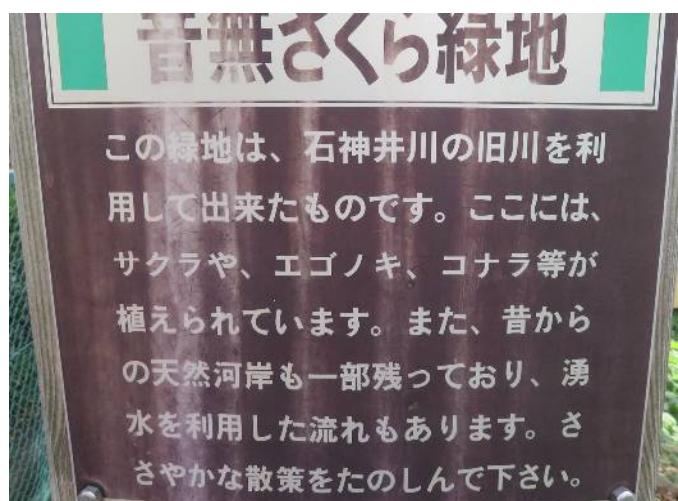
これがほぼ現在の「音無さくら緑地」付近の航空写真です。流路跡（屈曲部）には樹木が茂り、一見この「U字型の森」が河道跡とはわからなくなっています。私もこの航空写真だけを見たら、旧流路とは気づかなかつたと思いますが、現在の地形図を見て気づいたというものが本当です。



これが、屈曲部を直線化した現在の石神井川です。人工的な護岸で固められてはいますが、周囲の土地よりも相当に低い場所を流れています。石神井川の最下流部（王子駅付近）は、かつて直進せずに南に向かう流路でした。現在の「谷田川（暗渠）」がその名残です。恐らくその時期にはもっと深いところを流れていったはずですが、浸食が進んで渓谷状になり、その結果「河川争奪」が起きて、王子駅方面から隅田川に向かって流れるようになったのでしょうか。



ここが「音無さくら緑地」の入口です。旧流路の上流側から下流方面を眺めたところです。屈曲部の地形を思わせる、ゆるやかな左カーブが続く遊歩道です。



簡単な説明標もあります。「旧川」という語は初めて聞きました。「天然河岸が残っている」と書いてあります。これは屈曲部の一番奥の浸食崖のことでしょう。「ささやかな散策」という表現がいいですね。



地図を見ても、旧流路の形状がよくわかります。確かに屈曲部の最奥部が「崖」になっているようです。